



いつまでもお元気で！

有浦ツネさん（鷹島・原）が3月15日、100歳のお誕生日を迎えました。

有浦さんは、大正6年鷹島町生まれ。早くに御主人を亡くされ、働きながら4人の子どもたちを育て、8人の孫にも恵まれました。

昨年から、介護療養型医療施設「鷹島診療所」で過ごされていますが、以前からのお友達も多く、楽しく生活されています。この日、同施設で家族らに囲まれながら温かな祝福を受けていました。



有浦ツネさん・朝永キミさん 100歳のお誕生日

朝永キミさん（志佐・長野）が3月20日、100歳のお誕生日を迎えました。

朝永さんは、大正6年志佐町生まれ。農業に従事され、これまで短歌やゲートボールなどを楽しまれていました。現在入所中のグループホームしさんまちでは、お友達とおしゃべりをして楽しく過ごされています。

この日、朝永さんは同施設で家族らに囲まれ、お祝いの言葉と花束を受け取り、感謝の気持ちを短歌で詠みました。

『こつこつと 歩みつづけて いくとせそ

今日をむかうる ありがたきかな』



たくさんのおもちゃに大興奮！

西プラ労組がおもちゃを寄贈

西日本プラント工業労働組合長崎支部（ひろながともはる 廣永友晴執行委員長）が、市の子育て支援施設に本やおもちゃをプレゼントしました。

3月25日、「志佐こどものいえ」で贈呈式が行われ、廣永委員長ら組合員10人と学童で施設を利用する子どもたちや関係者が参加しました。会場に集まった子どもたちは、たくさんのおもちゃを手「今日はありがとうございました。大切に使います」と元気な声でお礼の言葉を述べました。



無病息災を願って

おこぼ様

志佐町赤木地区にある落合の洞窟で、3月20日、無病息災を願うお彼岸の伝統行事「おこぼ様」が行われました。

「おこぼ様」は、「弘法様」がなま^まった言葉とされ、洞窟の入り口付近には弘法大師の石像が1体祀られています。

洞窟は、高さ約2メートル、幅約30メートル、奥行き約10メートルで、奥に40体以上の地蔵が並び、それぞれの地蔵の前にはろうそくがともされました。

幻想的な明かりのなか、洞窟に訪れた参拝者たちは、無病息災を祈願しました。



昼と夜、ふたつの桜を楽しむ

ふくしま桜祭 島の宴

ふくしま桜祭「島の宴」が、4月1日・2日、福島町の大山公園で開催されました。

若手まちおこしグループ「NEW WAVE Fukushima Event Crew」が主体となって、竹灯笼やステージ、ライトアップの準備などが行われ、夜まで楽しめるイベントになりました。

来場者たちは、写真撮影をしたり、露店やステージ発表を楽しみながらゆったりと桜をながめていました。



戦没者の霊を慰め

春の戦没者慰霊祭

市内各地で、春の戦没者慰霊祭が執り行われました。

志佐町では、志佐地区戦没者慰霊祭が、4月4日、慰霊碑の前で行われ、戦没者の遺族や市民などが参列し、黙とうを捧げ、戦没者160人の冥福を祈りました。

志佐地区戦没者慰霊奉賛会むかりかつまさの向井勝正会長は、「現在の平和と繁栄が、尊い命を捧げ、礎となった英霊の皆さまの犠牲の上に築かれていることを決して忘れず、戦争という悲惨な出来事を繰り返すことなく、恒久平和の実現に努めていきます」と慰霊のことばを述べました。



地元漁師さんの手づくり市

第6回鷹島「海の市」

第6回鷹島「海の市」が、3月26日、鷹島町の新松浦漁協漁業体験学習施設で開催されました。

この日は、鮮魚販売や新商品の手作りかまぼこ販売、マグロカレーの試食、マグロの解体ショー・即売会などが行われました。

小雨が降るなかの開催となりましたが、新鮮な海の幸を求めて地元の常連さんや福岡方面からの来場者で大いに賑わいました。



水中考古学の拠点施設に！

水中考古学研究センター開所式

松浦市立水中考古学研究センターが、4月1日、鷹島町の埋蔵文化財センター内に開設されました。

水中遺跡を専門とする自治体の研究機関は日本で初めてで、大学との共同研究の調整や体制構築などに努めるほか、鷹島神崎遺跡の情報発信を進めていきます。

開所式には、琉球大学の池田教授や県教育庁学芸文化課の金子課長をはじめ、関係者約20人が参加しました。

施設見学では、ヘッドマウントディスプレイの体験や元寇船推定復元模型の見学が行われました。

